



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 25

2018.4.15

～チャレンジとコツコツ～

NPO 法人イフパット 研究員 宮崎 雅之
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

Hola!早速ですが、現地での活動について、紹介させていただきます。

■小学校での生活改善アプローチ始動に向けて

プロジェクトの新たな取り組みとして、生活改善アプローチを小学校にて実施しようということとなりました。というのも、ファシリテーターチームの中に、元教育者という職員が3名いることからこの案が持ち上がりました。オロティナ市の市長及び副市長、また農村開発庁の職員が先生経験者ということで、この3人が中心となり、小学4、5年生を対象とした生活改善アプローチ型の授業が実施されることとなりました。全10回の授業を副市長が中心となって作成した教科書を使用し、旧サンタリタ小学校、新サンタリタ小学校、セバディージャ小学校に行われます。小学生に対して自分で出来る生活改善の実践やグループによる学校生活の改善活動を通じて気づきを促すことはもちろんですが、その授業を受けた子どもが親にその経験を話すことで、親をも、生活改善活動に巻き込んでいきたいという意図があります。実際にフ



写真1. 数学教師の副市長ベンハミン



ファシリテーターの中にも子どもから言われて、気づいたことや学んだことがあり、その一言が自分の行動に変化を与えてくれた経験があったからこそ、このような話が挙がり、新たな取組みとして始動することとなりました。

写真 2. 授業に使用される教科書

■セバディージャ・ノルテで奮闘するファシリテーター

3つ目のグループとして活動しているセバディージャ村の北側のエリアでは、市役所の専従職員及び保健省の職員が中心となり、9回までの導入ワークショップが終了しました。現在活動中の3つのグループの中で一番過酷な環境の中で活動です。というのも、近くに集会場や小学校がなくグループ員のご自宅の軒先を使用させてもらいながら、暑さ、砂ぼこりの格闘しながら9回のワークショップを行っているからです。何度かもう少し広いところでの開催を試みたのですが、軒先を提供してくださっている参加者の息子さんが車いすで障害を持っているということで、その他の場所で開催することが困難となっています。（この集落の道路状況は悪く、舗装されていないため車いすでの移動は出来ません。）また、ファシリテーターとしても、せっかく親切に場所を提供してくれているグループ員に対し、他の場所での開催を申し出るのは心苦しいようです。

そのような中でも、時には所属機関の車両がすべて出払っていて、公共のバスを待つ事務所に戻ることもあります。ファシリテーターはオロティナの暑さに慣れているとはいえないものの、やはり2時間の野外での仕事後に公共バスでの移動は大変です。



写真 3. ワークショップの様子



写真 4. 公共バスを待つファシリテーター

■REDCAM（帰国研修員ネットワーク）主催の生活改善総会にて

2日間に渡って REDCAM（JICA 帰国研修員ネットワーク）主催の第二回生活改善総会が実施されました。コスタリカ各地の行政職員、大学関係者、ファシリテーター、グループ員、総勢約90名が集まり、帰国研修員により結成された普及員チームが中心となり、これまでの活動成果の発表が行われ、参加者に生活改善アプローチという農村開発手法の説明を行いました。コスタリカ REDCAM 代表の方より、本総会で共有される経験を通して、各地区の農村開発に役立ててほしい、また、役職や職業関係なく、一人の人として活発な交流がある場にしたいという意気込みが語られました。オロティナからも、サンタリタ村、セバディージャ村から各1名の参加がありました。

総会の中で、生活改善グループの代表者による発表もあり、サンタリタ村、セバディージャ村から、これまでのプロセスや取り組んだ改善事例の発表がありました。発表者であるサンタリタ村のシルリーさんは昨年開催された農牧省本省主催の生活改善グループ員向けの全国大会に続き2回目の大きな会合への参加でしたが、前回に引き続き、大勢の人の中で緊張しながらも、健康維持の一環として実際に体重を6kg落とした等といった個人の具体的な活動、グループ活動成果等を堂々と発表していました。セバディージャ村のエルサさんはコスタリカ全土で生活改善グループがさまざまな活動していることに刺激を受け、モチベーションが向上したと語っていました。



写真5. 発表するサンタリタ村のシルリーさん 写真6. セバディージャ村のエルサさん

それでは、また次号でお会いしましょう。¡Nos vemos! (ノスベモス)